

pale yellow (Fig. 5). Inter antennal area concave, connected with a median fovea, the depression with an evenly raised median longitudinal ridge, diamond-shaped in outline; antennae: Fig. 6; hind basitarsi about as long as the 3 following segments put together; sawsheath and saw as in Figs. 7 and 8. Other characters resembling male.

Habitat: Japan (Honshu).

Holotype: ♂, Mt. Takakura, Ishikawa Pref., Honshu, 3. V. 1962, I. Togashi leg.

Paratype: ♀, Unazuki, Toyama Pref., Honshu, 11. IV. 1955, C. Tanaka leg.

Remarks. This species can be distinguished from *W. japonica* (Mocsary) by the coloration of the body, by the distinct longitudinal median furrow of the post-ocellar area in the male and by the punctuation of the post-tergite and the scutellum in the both sexes. According to Malaise's key, this species is similar to *W. diagonica* (Konow) in Brazil, but this species has black legs and mesopleura, and the different form of the head and sawsheath.

Literature cited

1. Malaise, R. (1948): The genera *Waldheimia*, *Probleta*, and other Neotropical Tenthredinoidea (Hym.). Arkiv Zool. Band 42A, no. 9.
2. Takeuchi, K. (1952): A Generic Classification of the Japanese Tenthredinidae.

台湾産オオムラサキについて

白 水 隆

九州大学教養部生物学教室

On *Sasakia charonda* Hewitson from Formosa
(Lep., Nymphalidae)

By Takashi Shirôzu

オオムラサキは台湾産の蝶類の中でも最稀の1種である。本種を台湾から最初に記録したのは松村松年博士(1908)及びMr. A. E. Wileman(1909)であるが、この両氏の記録は当時台北の“国語学校”に勤務していた永沢定一氏の集めた標本に基く。永沢氏は台北のManka〔万華〕で自身1頭を採集し、また国語学校の生徒が“Shinte”〔疑もなくShinten新店の誤綴〕でえた2頭、計3頭を当初所持しており、その中の1頭は北大の松村博士に、他の1頭は東京大学理学部〔当時の東京帝国大学理科大学〕に寄贈し、残りの1頭は国語学校の標本として残されていた。Mr. Wilemanの記録は国語学校に保存される1頭の標本と永沢氏の談話に基くものである。以後台湾のオオムラサキは永らく再発見されず、台湾に産すること自体に疑問さえ持たれていたが、1928年には水戸野氏によつて“新竹州竹東郡と

李嶼山との途中 1000~2000 尺内外の所” で 1 頭が採集され (水戸野, 1930, 1932), 1938 年 6 月 17 日には新竹州大溪郡マメー社で 1 頭が金子富雄氏によつてえられるに至つた (平山, 1938). 以後再び台湾における本種の採集記録はなく, 記録にあらわれた限りでは台湾からは現在までに台北及び新竹県下で僅かに 5 頭の標本がえられているに過ぎない.

最近私は埔里の余清金氏の好意により台湾産オオムラサキ 5 頭みの送付を受けたが, 1 新亜種を代表するものと認められるので下記の通り新名を与える.

Sasakia charonda formosana subsp. nov. (Figs. 1-2, ♂)

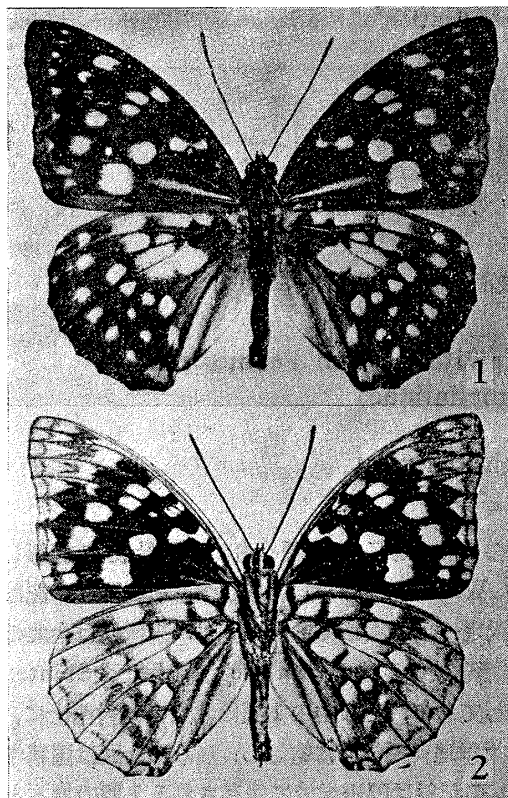
1908 *Euripus charonda* : Matsumura, Ent. Zeits. Stuttgart, 22 : 157 (Taihoku).

1909 *Euripus charonda* : Wileman, Annot. Zool. Jap., 7(2) : 77-78 (Manka and Shinte, near Taihoku).

1930 *Sasakia charonda* : Mitono, Sylvania, 1(4) : 33 (Chikutō-gun, Shinchiku Pref., Aug. 1928) (in Japanese).

1932 "Oomurasaki" [*Sasakia charonda*] : [Mitono], Zephyrus, 4(2/3) : 224 (The place between Chikutō-gun and Ritōzan) (in Japanese).

1938 *Sasakia charonda* : Hirayama, Mushi no Sekai (Tokyo), 2(7/8) : 149-150, pl. 22, ♂ (1♂, Mamee-sha, Taikai-gun, Shinchiku Pref., June 17, 1938) (in Japanese).



Figs. 1-2. *Sasakia charonda formosana* subsp. nov. ♂, holotype (Fig. 1, upperside; 2, underside).

♂. The present subspecies closely resembles *S. charonda coreana* Leech from Korea (type-locality) and South Manchuria, but differs as follows. 1) The white and yellow markings on wings above are usually somewhat larger, especially on hindwings. 2) On forewings above, the white patch in space 1b+c is much larger than that in space 2, nearly twice as large as the latter, instead of subequal to or somewhat larger in *coreana*. 3) The anal red spot on hindwings above is also larger.

The markings on hindwings below are similar to those of *coreana*.

Length of forewings: 48~51mm.

Holotype ♂, Gohōgō (五峰郷), Shinchiku Pref. (新竹県), N. Formosa, Aug. 1962. Paratypes, 2♂♂, Sankyōchin (三峡鎮), Taihoku Pref. (台北県), N. Formosa, Aug. 1962; 2♂♂, Sensekigō (尖石郷), Shinchiku Pref., N. Formosa, July 18 and Aug. 1962.

Holotype 及び paratype 1♂ は著者所蔵, 他の paratypes の 3♂♂ は若林守男及び山田義孝氏の所蔵.

日本産のオオムラサキとは後翅裏面の特異な斑紋によつて一見区別されるが（日本産のオオムラサキでも九州産のものに限り、ときに後翅裏面に暗色斑が出現する場合があるが、台湾産のものほど顕著にあらわれることはない）、そのほか朝鮮産亜種との区別点としてあげた上記翅表の諸特徴もそのまま日本産亜種との区別点となりうる。大きさについて云えば台湾産のオオムラサキは近畿付近より以西の日本西南部に産するものよりは小形、北海道や東北あたりの日本北部産のものよりは逆に大形、おおよそ関東～中部地区の平地～低山地に産するものとはほぼ同大と云えよう。

会 報

昭和 37 年度北海道支部大会

日本昆虫学会北海道支部では札幌農林学会と共催で 12 月 1 日 北海道大学農学部において昭和 37 年度支部大会を開催した。午前の講演終了後直ちに支部総会を行ない、渡辺評議員より第 22 回大会の報告等がなされた後、渡辺評議員を支部会長とすることに満場一致で決定した。講演会出席者は約 60 名、演題は 18 題であつた。講演終了後懇親会を恒例の虫獣魂祭と合同で農学部次いでクラーク会館にて行なつた。昆虫学関係の講演は次の通りである。

ニワトコヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum sambuci* に寄生する *Praon volucre* の生活環について..... 高田 肇 (北大・昆)
 道内の塩水に発生する蚊について..... 上村 清 (北大・昆)
 日本産の *Canaceidae* について..... 宮城一郎 (北大・昆)
 カナダに送付した森林害虫の天敵について..... 渡辺千尚・久万田敏夫 (北大・昆)
 ニカメイチュウの加害時期と被害..... 富岡 暢 (道農試)
 2, 3 のコガネムシ類の産卵選好温度..... 中島敏夫 (北大・昆)
 シラカバノクロボシハムグリハバチについて..... 井上元則 (林 試)

会 員 異 動

〔再入会〕

関 東 尾 本 恵 市 東京都品川区五反田 5 の 60 (昭和 36 年度より)

昭和 37 年度 5

〔入 会〕

関 東 河 合 弘 神奈川県横浜市中区長者町 5 の 74
 高 橋 ヒロノブ 暢 東京都目黒区中目黒 2 の 554
 信 越 出 雲 スズメヨシヒロ 善 浩 長野県松本市里山辺区北小松 3787 丸山宇一方

昭和 38 年度 1

〔入 会〕

北 海 道 高 田 ハジメ 札幌市 北海道大学農学部昆虫学教室
 関 東 高 橋 マサカズ 正 和 東京都品川区上大崎長者丸 284 国立予防衛生研究所